

基本方針	次世代を支える「人のつながり」を創る
基本政策	子どもの笑顔が輝くまちにします

施策	子どもを伸ばすまちづくり
主管部	教育委員会
外部評価結果	
施策の目標の達成度 【Check】 ・「施策評価結果シート」の成果指標、「重点事業調書」の成果指標、事業成果などを含め、総合的に評価	A：予定以上の成果があがっている B：計画通り前進している C：計画より遅れている D：成果がほとんどあがっていない <コメント> ・成果指標の3つ全てが目標に至っていないため、Cと判断した。 ・現在設定している指標は、教員による自己評価結果に基づく満足度指標である。施策の目的を踏まえ、学校評価で活用している指標などを参考に、できるかぎり客観的な指標を検討してもらいたい。
課題認識 【Check】 ・「施策評価結果シート」の主管部コメント、「重点事業調書」の課題などを含め、総合的に評価	A：課題が明確になっている B：課題にもれがある C：課題認識が不十分 D：課題認識ができていない <コメント> ・説明責任を果たすためには、施策と重点事業との関係性を明確にした説明が必要である。 ・上記で指摘したが、指標についても再考の余地がある。 以上から、Bと判断した。
今後の方向性 【Action】 ・「施策評価結果シート」の方向性、主管部コメント、「重点事業調書」の今後の方向性などを含め、総合的に評価	拡充 現状維持 縮小 見直し <メモ> ・課題認識でコメントした課題を踏まえつつ、現状の方向で取り組んでもらいたい。

外部評価結果の次年度への反映
・教育を指標など数字に表すのは難しいが、きめられた目標が達成できるよう努めてまいります。 ・外部評価の結果を踏まえ、総合計画第3期実行計画の成果指標について、指標を見直すこととし、学校評価に係る各項目の自己評価と地域の学校関係者評価を採用します。

基本方針	次世代を支える「人のつながり」を創る
基本政策	安心、安全に暮らすことのできるまちにします

施策	交通安全のまちづくり
主管部	市民部
外部評価結果	
施策の目標の達成度 【Check】 ・「施策評価結果シート」の成果指標、「重点事業調書」の成果指標、事業成果などを含め、総合的に評価	A：予定以上の成果があがっている B：計画通り前進している C：計画より遅れている D：成果がほとんどあがっていない <コメント> ・成果指標は目標を達成しており、Bと判断した。 ・成果指標については、死亡者数だけではなく、事故件数やシートベルト着用率など、また、県内における10万人当たりの死亡者数、二輪車の事故件数など、大津市の位置づけがわかる指標、全学校に対して交通安全教室を開催した学校割合など設定することが望まれる。施策のねらいに応じた指標を設定してもらいたい。
課題認識 【Check】 ・「施策評価結果シート」の主管部コメント、「重点事業調書」の課題などを含め、総合的に評価	A：課題が明確になっている B：課題にもれがある C：課題認識が不十分 D：課題認識ができていない <コメント> ・高齢者の関連する交通事故の割合が増加しているようであり、高齢者を対象とした講習を充実させていくべきである。 ・自転車事故が問題となっている中で、高校生を対象とした講習も充実させていくべきである。 ・交通安全教室もPDCAを意識し、最適な回数や、よりよい講習方法、内容を検討することが必要である。 以上から、Cと判断した。
今後の方向性 【Action】 ・「施策評価結果シート」の方向性、主管部コメント、「重点事業調書」の今後の方向性などを含め、総合的に評価	拡充 現状維持 縮小 見直し <コメント> ・課題認識でコメントした課題を踏まえつつ、現状の規模で取り組んでももらいたい。

外部評価結果の次年度への反映
指標については、第2期実行計画においては交通事故による死亡者数のみでありましたが、第3期実行計画では死亡者数に加え、交通事故による傷者数及び交通安全教室の開催数を設定することとしました。 交通事故件数が減少している中、高齢者の関連する交通事故割合が増加傾向にあることから、高齢者の集まる機会を利用して交通安全教室についてアピールを行い、高齢者向けの交通安全教室の開催回数を増加させるよう努めます。 高齢者向け以外の交通安全教室も含め、教室の受講者からのアンケートを実施しており、今後の教室の内容に反映できるよう努めます。

基本方針	次世代を支える「人のつながり」を創る
基本政策	希望に満ちて、生き生きと暮らすことのできるまちにします

施策	高齢者が健やかに暮らせるまちづくり
主管部	健康保険部
外部評価結果	
施策の目標の達成度 【Check】 ・「施策評価結果シート」の成果指標、「重点事業調書」の成果指標、事業成果などを含め、総合的に評価	A：予定以上の成果があがっている B ：計画通り前進している C：計画より遅れている D：成果がほとんどあがっていない <コメント> ・成果指標については、「介護予防健康教育への参加者人数」は目標を下回っているが、「介護認定率」「認知症サポーター養成講座受講者数」は目標を上回っている。 ・成果指標ではBとCの間と言えるが、当該施策において市の裁量が少ないこと、ヒアリングにおいて具体的な取組内容を確認し、Bと判断した。 ・成果指標「認知症サポーター養成講座受講者数」であるが、対象に小中学生を含めているが、含めるかどうかについて再検討してもらいたい。
課題認識 【Check】 ・「施策評価結果シート」の主管部コメント、「重点事業調書」の課題などを含め、総合的に評価	A：課題が明確になっている B ：課題にもれがある C：課題認識が不十分 D：課題認識ができていない <コメント> ・今後の高齢者福祉のあり方を市民に理解してもらえるよう、高齢者だけではなく、広く市民に対して、具体的な数値を用いて高齢者福祉の状況やあり方について説明することが望まれる。 ・今後は高齢者の増加と合わせて介護者も増加する。介護者の支援体制についても充実させる必要がある。 以上から、Bと判断した。
今後の方向性 【Action】 ・「施策評価結果シート」の方向性、主管部コメント、「重点事業調書」の今後の方向性などを含め、総合的に評価	拡充 現状維持 縮小 見直し <コメント> ・高齢者福祉については、拡充して行く必要がある。 ・高齢者が健やかに暮らせるまちを実現するためには、介護予防や未病などの取り組み、地域ネットワークづくりなどの取り組みも必要である。 ・介護だけではなく、介護予防など健やかに暮らせるようにするための取り組みを拡充してもらいたい。

外部評価結果の次年度への反映
介護予防事業については、その実施方法の精査や、実施場所、教室数及び定員数を増やすことにより、事業を拡充します。 また、介護者支援として、引き続き介護者の方の交流会や研修会を実施するほか、保健福祉ブロックごとに新たな交流の場を創出していきます。

基本方針	次世代を支える「人のつながり」を創る
基本政策	希望に満ちて、生き生きと暮らすことのできるまちにします

施策	障害者を支えるまちづくり
主管部	福祉子ども部
外部評価結果	
施策の目標の達成度【Check】 ・「施策評価結果シート」の成果指標、「重点事業調書」の成果指標、事業成果などを含め、総合的に評価	A：予定以上の成果があがっている B：計画通り前進している C：計画より遅れている D：成果がほとんどあがっていない <コメント> ・施策評価結果シート、重点事業調書において、ほとんどの指標で目標を達成しており、Bと判断した。 ・施策評価の成果指標欄は3つあるので、現在記載している軽度の障害の方を対象とした就労支援の指標に加え、重度の障害の方を対象とした就労支援を表わす指標を追加することが望まれる。
課題認識【Check】 ・「施策評価結果シート」の主管部コメント、「重点事業調書」の課題などを含め、総合的に評価	A：課題が明確になっている B：課題にもれがある C：課題認識が不十分 D：課題認識ができていない <コメント> ・施策評価結果シート及びヒアリングにおいて、重度障害者の就労支援が課題など、施策の課題を認識していることを確認できたため、Aと判断した。 ・企業や社会に対して、障害の特性に関する情報提供を充実させ、就労の促進につなげていくことが望まれる。
今後の方向性【Action】 ・「施策評価結果シート」の方向性、主管部コメント、「重点事業調書」の今後の方向性などを含め、総合的に評価	拡充 現状維持 縮小 見直し <コメント> ・これまでの取り組みの方向性を維持し、継続的に障害者が希望に満ちて生き生きと暮らすことのできるまちづくりをめざしてもらいたい。

外部評価結果の次年度への反映
総合計画第3期実行計画の重点事業において「通所施設での重症心身障害者の利用者数」を指標として設定していることから、重度の障害の方への日中における活動の場の確保を行うと共に、障害の程度にかかわらず働き・暮らし応援センター等による就労支援の充実に努めます。

基本方針	次代を担う「まちのにぎわい」を創る
基本政策	活力と魅力に満ちたまちにします

施策	来訪者が行き交うまちづくり
主管部	産業観光部
外部評価結果	
施策の目標の達成度 【Check】 ・「施策評価結果シート」の成果指標、「重点事業調書」の成果指標、事業成果などを含め、総合的に評価	A：予定以上の成果があがっている B：計画通り前進している C：計画より遅れている D：成果がほとんどあがっていない
	<コメント> ・成果指標「観光入込客数」が目標を達成できていない状況、観光ボランティアも2団体に留まっている状況などを勘案し、Cと判断した。
課題認識 【Check】 ・「施策評価結果シート」の主管部コメント、「重点事業調書」の課題などを含め、総合的に評価	A：課題が明確になっている B：課題にもれがある C：課題認識が不十分 D：課題認識ができていない
	<コメント> ・「観光入込客数」に関して、指標の定義（数値の取り方）、目標値の設定、月次目標管理を行っていないなどの点について改善の余地がある。 ・大津市は、歴史的資源に加え、びわ湖という観光資源を有しているが、これらを活かす観光戦略が不足している。軸となる観光戦略に基づいて個別の事業展開することが必要である。 以上から、Bと判断した。
今後の方向性 【Action】 ・「施策評価結果シート」の方向性、主管部コメント、「重点事業調書」の今後の方向性などを含め、総合的に評価	拡充 現状維持 縮小 見直し
	<コメント> ・大津市にとって観光は重要な施策であり、一層の充実が必要である。このためには、軸となる戦略が重要となる。客観的なデータ、観光産業の実態などを研究した上で、観光資源や地勢的、交通的な特性を踏まえた観光戦略を立案することを提案する。 ・「見直し」と評価したが、重要な施策であり、見直した上で拡充してもらいたい。

外部評価結果の次年度への反映
本年度に実施した来訪者動向調査や非来訪者調査の結果や観光戦略意見交換会議での市民・事業者・団体からの意見、さらには大津市議会観光振興対策特別委員会からの提言を踏まえ、平成25年度から28年度の4年間に推進する事業の概要や実施主体を明らかにした「大津市観光交流基本計画アクションプラン」を策定しています。 このアクションプランに基づき、本市における数ある観光資源の中でも、特に「びわ湖」、「温泉」、「食」をメインテーマとし、ITを活用した効果的な情報発信や、市民による「大津の魅力再発見」を推進する事業について、戦略的かつ重点的に取り組みます。

基本方針	次代を担う「まちのにぎわい」を創る
基本政策	活力と魅力に満ちたまちにします

施策	中心市街地に活力のあるまちづくり
主管部	都市計画部
外部評価結果	
施策の目標の達成度 【Check】 ・「施策評価結果シート」の成果指標、「重点事業調書」の成果指標、事業成果などを含め、総合的に評価	A：予定以上の成果があがっている B：計画通り前進している C：計画より遅れている D：成果がほとんどあがっていない C
	＜コメント＞ ・「琵琶湖観光客入込数」はほぼ目標を達成できているが、「中心市街地における休日の歩行者、自転車通行量」については目標を下回っており、Cと判断した。
課題認識 【Check】 ・「施策評価結果シート」の主管部コメント、「重点事業調書」の課題などを含め、総合的に評価	A：課題が明確になっている B：課題にもれがある C：課題認識が不十分 D：課題認識ができていない C
	＜コメント＞ ・まちづくりは、そこに住まう市民や事業者など主体的な取り組みが必要であり、市は主体的な責任を負っていないといえるが、地元をまとめることができなかった点については責任があると言える。 ・中心市街地活性化の目的が、観光振興であるのか、商業環境の充実であるのかなど狙いを明確にし、地権者や事業者などとの共通認識を醸成することが必要である。また、いずれにしてもターゲット顧客を明確にするなど、戦略的な取り組みが必要であると考え。 以上から、Cと判断した。
今後の方向性 【Action】 ・「施策評価結果シート」の方向性、主管部コメント、「重点事業調書」の今後の方向性などを含め、総合的に評価	拡充 現状維持 縮小 見直し 現状維持
	＜コメント＞ ・大津市の中心を再生する必要性はあると考えるが、成果を明確に示すなど説明責任を果たすことが不可欠である。 ・大津市は多極的な市街地がある中で、地区ごとの位置付けが難しい。また、京阪沿線などの広域的な視点を踏まえた上で商店構成を考える必要があるなど、難しい課題がある。課題が難しいだけに、中心市街地の活性化については、市の果たすべき役割が大きいと考える。 ・上記で指摘した課題を踏まえ、現状の規模で取り組んでもらいたい。

外部評価結果の次年度への反映
・来年度よりスタートを予定している第2期中心市街地活性化基本計画において、通行量を増加するためのまちなかでの重点的な事業の実施及び情報発信の強化並びに組織体制の再構築を掲げており、その着実な実行に向け、まちづくりの推進役として設立された㈸まちづくり大津や地域住民、事業者等からなる中心市街地活性化協議会との連携を強化してまいります。

基本方針	次代を担う「まちのにぎわい」を創る
基本政策	快適で利便性の高いまちにします

施策	みんなに優しいまちづくり
主管部	建設部
外部評価結果	
施策の目標の達成度 【Check】 ・「施策評価結果シート」の成果指標、「重点事業調書」の成果指標、事業成果などを含め、総合的に評価	A：予定以上の成果があがっている B：計画通り前進している C：計画より遅れている D：成果がほとんどあがっていない
	<コメント> ・「低床バス導入率」は目標を上回っているが、「駅（京阪電車）のバリアフリー化の割合」については平成21年度から変化がなく、目標を下回っている。また、市民満足度も総合順位が41位と低い状況であり、Cと判断した。
課題認識 【Check】 ・「施策評価結果シート」の主管部コメント、「重点事業調書」の課題などを含め、総合的に評価	A：課題が明確になっている B：課題にもれがある C：課題認識が不十分 D：課題認識ができていない
	<コメント> ・当該施策は、「みんなに優しいまちづくり」であり、駅のバリアフリー化や低床バスの導入だけではなく、市民が優しいまちであることを実感できるようにする取り組みが必要である。例えば、駅へのエレベーターやスロープの設置後のフォローアップや、公共交通ネットワークなど公共交通施策との連携、公共施設や民間施設のバリアフリー化の推進などの取り組みが必要であると考えます。 以上からBと判断した。
今後の方向性 【Action】 ・「施策評価結果シート」の方向性、主管部コメント、「重点事業調書」の今後の方向性などを含め、総合的に評価	拡充 現状維持 縮小 見直し
	<コメント> ・課題認識でコメントした課題を踏まえつつ、現状の規模で取り組んでもらいたい。

外部評価結果の次年度への反映
【施策目標にかかる見直し】 (1) 立地条件などの制約により実現性が低いことが明らかとなった「京阪電車の駅のバリアフリー化」については、引き続き、事業者への働きかけや支援措置に取り組むとしながらも、平成25年度以降における成果指標とはしないこととしました。一方で、課題認識の漏れが指摘された公共施設や民間施設のバリアフリー化促進の必要性を踏まえ、その実施を働きかけつつ、施設と一体となったまちの快適性を市民が実感できるよう、道路のバリアフリー化を重点化して、その整備延長を成果指標とします。
【課題認識にかかる見直し】 ○地域からの要望が強いエレベーター整備を実現させるため、地元意見を取り入れた市の主体的検討や鉄道事業者との協議、実現に必要な財政負担の実施を重点事業に加えます。 ○低迷が続く路線バスの利用促進策とも連携させながら、低床バス導入の働きかけとその積極的なPRにも引き続き取り組み、バス利用者数と市民満足度それぞれの底上げを図ります。

基本方針	次代へ引き継ぐ「自然のうるおい」を創る
基本政策	資源を大切にすまちにします

施策	地球環境に優しいまちづくり
主管部	環境部
外部評価結果	
施策の目標の達成度 【Check】 ・「施策評価結果シート」の成果指標、「重点事業調書」の成果指標、事業成果などを含め、総合的に評価	A：予定以上の成果があがっている B：計画通り前進している C：計画より遅れている D：成果がほとんどあがっていない <コメント> ・成果指標である「太陽光発電施設設置に伴う二酸化炭素削減量」が目標を達成していることから、Bと判断した。 ・大津市の現状の排出量や目標値などについて、他自治体と比較することで、市民の理解が進むと考える。わかりやすい情報発信が望まれる。 ・施策を示す指標が、太陽光に関する1つしかなく、地球環境に優しいまちづくりを表せるその他の指標についても検討してもらいたい。
課題認識 【Check】 ・「施策評価結果シート」の主管部コメント、「重点事業調書」の課題などを含め、総合的に評価	A：課題が明確になっている B：課題にもれがある C：課題認識が不十分 D：課題認識ができていない <コメント> ・環境に関心の高い市民だけではなく、広く市民や事業者が行動していくように、市は地球環境保全を訴えかける必要がある。 ・国、県、市の役割分担の考え方を整理するとともに、市としての地球環境保全に対する考え方を明確にして行くことが必要である。また、市の考え方を他の部局に伝え、協力体制を整え、市が一体となって地球環境問題に対応していくことが必要である。 以上から、Bと判断した。
今後の方向性 【Action】 ・「施策評価結果シート」の方向性、主管部コメント、「重点事業調書」の今後の方向性などを含め、総合的に評価	拡充 現状維持 縮小 見直し <コメント> ・現在取り組まれていることは成果を上げており、評価できるが、様々なステイクホルダーがいる中で、市がどのようにリードしていくのかを明確にし、取り組んでももらいたい。

外部評価結果の次年度への反映
・市域の温室効果ガス排出量については、経年変化や他自治体との比較を示すことなどにより、市民に分かりやすい形で情報を提供します。 ・指標について、市域の温室効果ガス排出量及び環境基準適合率（水質・大気・騒音）に変更します。 ・エコライフデーの実施など、より広い市民を対象にした事業展開を図ります。 ・環境基本計画の進捗状況を環境施策推進本部で確認することで、市が一体となり環境施策を進めます。 ・地球温暖化については、国の検討状況等を注視しながら、「アジェンダ21おおつ」に示す施策、事業を積極的に進めます。